

華一櫻と牡丹

会 期 2004年4月10日(土)～6月13日(日)

百花の王一櫻と牡丹。日本では、花といえば櫻をいい、中国では牡丹をさします。絢爛と咲き、潔く散りゆく櫻の優美な姿を人々はこよなく愛し、万葉の頃から山野で鑑賞する風習がありました。全国各地に櫻の名所や天然記念物に指定された巨樹があることも、日本人の憧れの心をあらわしているといえるでしょう。櫻は絵画や俳諧などの題材とされたほか、衣服の文様や家紋に取り入れられ、生活と深く関わってきました。

中国原産の牡丹は、平安時代に日本に伝わり、現在では多くの鑑賞園が作られています。薄い花びらが幾重にも重なった様子は豊穡のしるしとして「富貴草」「百花王」などの異名があります。古くから日本画の題材として数々の名品が残されており、特に牡丹と唐獅子の組み合わせは広く知られています。

本展では、春と初夏に花をつける櫻と牡丹を描いた日本画作品約55点を展示します。華やかに彩られた満開の櫻と、新緑の中で瑞々しく輝く牡丹、ふたつの花の華麗なる競演をお楽しみください。

会 場 高崎市タワー美術館 (370-0841 高崎市栄町3-23 電話 027-330-3773)

時 間 午前10時～午後6時 (入館は午後5時30分まで)

金曜日のみ午前10時～午後8時 (入館は午後7時30分まで)

休 館 日 毎週月曜日、祝日の翌日 (4/30、)

会期中の休館日：4/12・19・26、5/6・10・17・24・31、6/1

観 覧 料 一般：500円 (400円)、大高生：300円 (250円)、中小生：200円 (150円)

- ()内は20名以上の団体割引料金
- 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた方、および付き添いの方1名、65歳以上の方、未就学児は無料となります
- 市内に居住する小中学生については、毎週土曜日は無料となります

主 催 高崎市タワー美術館

後 援 朝日新聞前橋総局、産経新聞前橋支局、上毛新聞社、東京新聞前橋支局、日本経済新聞社前橋支局、毎日新聞前橋支局、読売新聞東京本社前橋支局、NHK前橋放送局、群馬テレビ、エフエム群馬、ラジオ高崎

企画協力 山種グループ

関連事業

- 記念講演会「櫻を追って一写生紀行」 日本画家・中島千波 4/17 13:00～
- 学芸員による作品解説会 4/10、5/1、5/15、5/29、6/12 14:00～